

緑育会通信 第9号

2011年3月31日発行

緑育会事務局
(プロジェクト推進室)

Tel: 03(3961)0084

Fax: 03(3962)7135

E-mail:

ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp

キャリア教育・職業教育について考えること

中村 精二 (東京家政大学 進路支援センター所長)



空前の就職氷河期と連日のように学生の就職について報道されています。このような中で、文部科学省は23年4月から大学、短期大学の設置基準を改正し、生涯を通じた就業力の育成を目指し、社会的・職業的自立に向けた指導と、そのための体制を整える方針を出しました。その中で、教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培えるよう、大学・短期大学の組織間の有機的な連携を図り、適正な体制を整えることが求められています。

これは、18歳人口のうちの高等教育を受ける割合が過去34年間で20%から74.5%と約4倍弱にも増加したことに加え、家庭や地域の教育力が低下し、勤労観・職業観が充分形成されないまま入学する学生が増加していること等を背景にしています。

この要請に応えるべく、本学では大学が23年度から「キャリア形成支援講座」が開講されます。また、短大では24年度から「キャリアセミナー」の開講が予定され、文部科学省22年度「大学生の就業力育成支援事業」で「就業力・継続力を高め元気な職業人を育てる」プロジェクトが採択されました。

本学は今年130周年を迎えますが、校祖渡邊辰五郎先生は、「女性の自主自律」を掲げ、社会的・職業的自立を目的に和洋裁伝習所を設立されました。

また、大学開校時の学長青木誠四郎先生は「愛情・勤勉・聡明」を生活信条にされました。「若い女性」の中で、先生は他人に愛情を持つこと、その実行のために勤勉であること、また勤勉さには聡明さが必要なことを説いておられます。(P58-59)

一方、この「愛情・勤勉・聡明」は私たちの社会生活の仕組みを示したものと理解されます。つまり、

良い生活(愛情)は良い教育(聡明)を生み、良い教育は良い労働(勤勉)を生み、良い労働は良い生活を生むという循環です。

現代の社会が抱えている問題は、この循環に障害が生じていることにあるといえるでしょう。即ち、学んでも働けない、働いても生活できない、生活できないので学べないという悪循環です。

私は最近、西南シルクロードにある中国雲南省西北部に住む少数民族、ナシ(納西)族の村取材しました。玉龍雪山を望む棚田地帯にこの人々は住んでいます。古代の日本との共通点が多く、校倉式の家に住み、自由恋愛で結婚し、一部では未だに妻問い婚が行われている地域もあります。一妻多夫の母系性の名残も広く見られ、祖母は二階の祖母部屋に祖霊を祀っています。普段身につけている民族衣装は、月をかたどった帽子と北斗七星がつけられた背当てで、月の女神を象徴しています。この衣装はまた、朝暗いうちから夜中まで働くことを表し、女性は働き者であることが尊ばれ、体がガッチリして丸顔でふくよかなことが美人の条件とされています。老人も一日中働き、来世でも男は農業、女は機織りをして幸せに働けることが理想とされています。

私たちは昔から、老後はあまり働かず悠々自適の生活を送ることが理想とされてきました。しかし、ナシ族の人たちは働くことこそが人生であり、あの世でも楽しく働くことが理想と考えていることに心を打たれました。

中教審は働くことを通じた人や社会との関わりが自分らしい生き方を作ると答申していますが、みんなが死ぬまで楽しく働くことができる社会、それは「勤勉＝労働」を中心にして「愛情・勤勉・聡明」が調和する理想の社会と考えられます。そして、ナシ族の村にみられたのは、それを象徴的に表す「賢母」の姿でした。

教員免許更新講習の開催とプログラム

教員免許更新講習実施委員長 青木 幸子教授

平成23年度、本学は教員免許更新講習を実施します。平成21年度にスタートした免許更新講習は、3回目を迎えます。政権交代により教員免許制度を含む教員養成制度の見直しが行なわれており、不安定な状態のなかでの更新講習が続いております。

制度に対する不満の声もあると思いますが、私たちは講習に参加された皆様の資質力量の向上に少しでもお役に立つことを願いながら、講習の実施に向けて計画を立てております。平成23年度の計画の概要についてお知らせいたします。

1. 平成23年度講習の変更点

①内容

講習は、「教育の最新事情」(必修・12時間)と「教科指導、生徒指導その他の教育内容の充実に関する事項」(選択・18時間)の2つの内容から成っております。

今年度は、参加者のご要望などを踏まえながら、選択の「教科指導、生徒指導その他の教育内容の充実に関する事項」の開講講座を見直しました。内容の一覧は表をご確認ください。

②講習日程

例年、夏季休暇中のお盆過ぎから二学期始業前までの期間に設定しておりました。23年度は8月16日(火)～20日(土)に開催することになりました。週をまたぐことなく同一の週内での設定とさせていただきます。

2. 講習内容の共通理解について

講習にあたり参加者には「課題認識調査書」を提出していただいております。私たちは、それを拝見しながら先生方の課題意識や教育現場の様子を理解し、先生方の課題解決に役立つ情報が提供できるよう講習内容を組み立てております。すでに講習内容について提示しておりますので、調査書を拝見した後の修正には限界があるのも事実です。

講習担当者には、学校現場での実務経験がある方もそうでない方もおります。しかし、それぞれの担当者が専門分野の最新の情報、研究成果、経験知などを総合して、先生方の課題解決に沿うように講習内容を構成されていると思います。

平成23年度の開講にあたり、平成22年度の「受講者評価アンケート(事後アンケート)」の「意見・感想」を分析しました。ご意見は大きく6つに分けられました。

- 一つは、母校で学べたこと、講習担当者の熱意、資料・方法の工夫等
- 二つは、教育事象の多角的な理解と、課題の発見、教員としての自信の保持等
- 三つは、教育活動や自身の課題解決に直結する情報の習得
- 四つは、新しい知識・技術、視点の獲得と今後の教育活動への活用
- 五つは、本学で開催している教職員向け夏季研修講座での講習内容の開講要望
- 六つは、講習会の教職員関係者への感謝

それを「評価」とリンクすると、参加者の講習会への要望が見えてきます。先生方は、授業に直結する教材・教具、指導法を望んでおられる方が多いということです。

「忙しい時期にお金を払って講習を受けるんだから、直ぐに授業で役立つ情報を提供してほしい」と希望されるのも一理あります。しかし、この制度の目的は、10年の間に染み付いたさびを落とし、異なった視点で教材や子どもや学校業務などを見直すことにあります。今、抱えている課題も視点を変えることで解決の糸口を掴んだり、指導の行き詰まりに光明を見出すきっかけとするなど、今までの自分の見方、考え方や人との関わり方、解決策をめぐる行動の処し方など、目の前の教育事象とブラッシュアップした自分が対峙する姿を予想できるような、そんな意識や行動や教育計画の立案に向けた情報提供も、この講習の目的であることを共通に認識したいと思います。

課題はさまざまです。取り巻く環境もさまざまです。したがって、解決策もさまざまです。現在、子どもには考える力、判断する力、表現する力など「活用する力」の育成が求められています。同様に、教員自身にもさまざまな事象に応じた的確な活用力が期待されています。それぞれの課題に即した知識・技術やネットワークに必要な情報を蓄積し、活用する方法を習得する機会として、講習を位置づけてください。そして、さらなる情報が得たいときには、遠慮なく講習担当者にご連絡ください。

教員としての資質能力の「保持」と「向上」は異なります。「保持」は、今までの水準を維持すること、「向上」は今までの力を上回る力をつけることです。この免許更新講習を、自身の総合的な教育力を「向上」させるための契機として下さい。私たちは、そのような契機となるよう全力で取り組みます。

私たちは、成長した卒業生のみなさまに会えることを大変楽しみにしております。母校は永遠に母校であり、私たちは、みなさまの心の拠り所でありたいと願っております。23年度も多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

【目次】

キャリア教育・職業教育について考えること 中村 精二 (東京家政大学 進路支援センター所長) ……	1
教員免許更新講習の開催とプログラム 教員免許更新講習実施委員長 青木幸子教授 ……	2
お知らせ 第19回(平成23年度)教員対象講習会 ……	3
アドバイスコーナー 心理カウンセリング学科准教授 三浦正江 ……	3
教材情報 栄養学科講師 加藤和子 ……	4
教育時流 教員養成教育推進室室長 青木幸子教授 ……	6
緑育会よりのお知らせ ……	6

第3回（平成23年度）教員免許状更新講習の開催について

平成23年8月16日（火）～20日（土）まで、板橋キャンパス・狭山キャンパスにおいて、以下のとおり教員免許状更新講習を開催予定です。【文部科学省認定申請中】

内容・申込方法等の詳細については、文部科学省から認定を受けた後、3月下旬頃にホームページ等により広報します。

領域	更新講習の名称	時間数	開催地	定員	受講対象者
必修	教育の最新事情	12時間	板橋 狭山	各50名	全教諭
選択	はじめてのマルチメディア教材作成	6時間	板橋	10名	小・中・高 全科教諭
	家庭科教育・総合学習での情報機器の活用	6時間	板橋	10名	総合学習や家庭科においてパソコン等の情報機器を利用して教育指導を行いたい教諭
	総合学習もしくは家庭科教育での情報機器の高度利用	6時間	板橋	10名	総合学習や家庭科においてパソコン等の情報機器を高度利用し、かつ管理も考えている教諭
	科学と人間生活	18時間	板橋	20名	小学校教諭，中・高 理科教諭
	家庭科の授業づくりと教材化の視点	18時間	板橋	30名	小・中・高・特別支援学校 家庭科教諭
	小学校教諭実践講座	18時間	板橋	30名	小学校教諭
	保育のリフレッシュとスキル・アップ講座	18時間	板橋	30名	幼稚園教諭
	多様な素材と技法による美術表現の実践	18時間	板橋	15名	小・中・高 全科教諭
	外国語活動指導のための理論と実践	18時間	※板橋または狭山	30名	小学校教諭
	最新の英語科教育法の理論と実践	18時間	※板橋または狭山	30名	中・高 英語科教諭

※受講希望状況により、板橋キャンパスまたは狭山キャンパスのどちらか一方で開催します。

お知らせ

第19回（平成23年度）教員対象講習会

現職の教員を対象に「今、教育現場で活用できる内容」を提供し続けていきたいというコンセプトのもと実施しているこの講習会も今年で19回を数えることになりました。

今年度の開催は平成23年8月3日（水）から6日（土）の4日間を予定しています。6月には講座内容等詳細をお知らせいたします。

ご参加は本学卒業生に限らず広く告知しています。

アドバイスコーナー

子どものストレスと心の健康

心理カウンセリング学科准教授 三浦正江

近年、子どもたちは学校や家庭で様々なストレスを抱えていると言われています。我が国では、学校生活のストレスに関する研究が多く行われており、ほとんどの子どもたちが学業活動や教師・友人との人間関係でストレスを感じることが分かっています。また、中学生や高校生であれば、部活動や委員会活動もストレス源になると言われています。しかも、“勉強しても成績が上がらない”“友人からちょっとしたことでもからかわれた”“先生から叱られた”など、日常的に誰でも経験するようなことで、子どもたちは日々ストレスを感じているのです。

ストレスが引き起こす様々な問題

このように一つ一つはちょっとしたことで、誰にでもあるような出来事ですので、“ストレスなんてたいしたことない”と思うかもしれませんが、実際、ストレスを抱え

ながらも学校生活をたくましく過ごしている子どももたくさんいます。しかし、ストレスをそのままにしておくと、様々な問題が起こってくることも分かっています。

例えば、学校生活で多くのストレスを抱えている子どもは“学校に行きたくない”と感じる傾向が強く、不登校に結びつきやすいと言われています。また、ストレスによってイライラしていると、周囲にキツイ言葉を発したり、八つ当たりをしてしまうかもしれません。相手が友人であればいじめにつながるかもしれませんし、教師であれば反抗的態度、物であれば器物損壊といった問題行動に結びつきます。いじめや暴力については、被害者が受けるストレスが注目されますが、加害者が多くのストレスを抱えていることが原因の一つとも考えられています。

また、過度のストレスは心や身体の病気を引き起こします。うつ病は一般的に知られている心の病気の一つですが、

大人だけのものではありません。最近、日本でも子どものうつ病が注目されています。大人と同様に、うつ状態がひどくなれば自殺につながる可能性もあります。さらに、ストレスの影響が身体に現れて、過敏性腸症候群（ストレスで下痢や便秘になる）などの心身症に罹患する場合があります。

ストレスのない世の中をつくる？ストレスに強い心を育てる？

このように、たかがストレスではありますが、過度になると様々な問題や病気を引き起こしてしまいます。では、私たち周囲の大人は何をすべきなのでしょう。一つの考え方は“子どもがストレスを感じない学校（世の中）をつくる”というものです。実際に、“運動会の徒競走で順位をつけない”など競争によるストレスをなくそうとした時期がありました。しかし、世の中から全てのストレスをなくすことは不可能です。また、ストレスにはマイナスの側面だけでなく、プラスの側面もあります。ストレスを感じるからこそ、それを乗り越えることで心が成長しますし、自信をつけることができます。また、大変だったり辛いからこそ、達成感や充実感を強く感じることもできるのです。このように考えると、“全てのストレスをなくそう”とすることは非現実的であり、かつ子どもの成長や喜びを妨げることにもなりかねません。

もう一つの考え方は“ストレスに負けない強い心を育てる”というものです。ストレスをなくすことが難しいのであれば、積極的にストレスを乗り越えさせようという発想です。そのためには、子どもをどんどんストレスにさらすことが大切です。ただし、頑張れば乗り越えられそうなストレスであることが重要です。ストレスが大きすぎると、子どもは“乗り越えられない”と意欲を失いますし、結果として“できなかった”という失敗体験につながり、自信のない子どもになってしまいます。

逆に、ストレスが小さすぎるとストレスを乗り越える力がつきません。学校生活では、勉強、友人関係、学級活動等を通して、子どもは様々な課題に取り組みます。その中で、教師や親がうまくサポートして、この“適度なストレ

教材情報

日本の食具と配膳

栄養学科講師 加藤和子

平成17(2005)年6月「食育基本法」が制定され、食育は知育・体育・徳育の基盤と位置づけられました。食は生きることの基本であり、食について正しい知識や選択できる力を持った、健全な食生活を実践できる人を育てるとされ、「食育ってなんだろう?」「どういう内容をどう指導したらよいのだろうか?」と思われる先生方も多いのではないのでしょうか?そう言っている私も随分悩んだ時期がありました。しかし、“食育”とは改めて新しい事ばかりを教えるのではなく、日本人として日常的になんとなくあたりまえに食べている食事の意味や基礎を児童・生徒達が改めて認識するのも“食育”のひとつであると気がつきました。そこで、給食時間の指導や話題にできるテーマとして「日本の食具と配膳」について取り上げました。

1.箸

箸を使うのは日本人の特徴的な食べ方だと思いますが、世界人口の30%が箸を使って食事をしています。箸を使うその他の国は中国・韓国が主ですが、それぞれ日本とは形や素材が異なります。(写真1)

中国は土間生活文化圏であるため、靴を履いたままの生活で土足の埃が舞い上がらない高さのテーブルと椅子で食事をします。食卓では、主人が客に料理を取り分けるマナーであったために取り箸として使われ、長くて先がぶつ切り(先のとがった箸を客に向けるのは失礼)の形となっているのだそうです。

ス”を与え、“頑張っ取り組んだら乗り越えられた”という体験をさせたいものです。このような体験の積み重ねは“ストレスに対する効果的な対処”といったライフ・スキルの学習であると同時に、自尊心や自己肯定感を高めるのに必要なことでもあります。

マイナス面だけでなくプラス面にも目を向けよう

ここまで“学校生活のストレス”について述べましたが、もちろん学校生活には楽しいことや嬉しいこともたくさんあります。そして、その出来事はやはり学業活動や教師・友人との人間関係、部活動や委員会活動の中にあることが分かっています。そして、“できなかった問題が解けた”“先生が認めてくれた”などの出来事をたくさん経験している子どもは、学校活動に自信を持って取り組み、高い自尊心をもつと言われています。“子どもに辛い思い(ストレス)をさせない”という発想ではなく、“楽しい・嬉しいと感じるようにサポートしよう”という発想で子どもと接することが大切かもしれません。

重要なのは周囲の大人の心のゆとり?

“ストレスを乗り越えさせる”“楽しい・嬉しい体験をさせる”ためには、周囲の大人と子どもの信頼関係も重要です。あきらめそうな場面でも、信頼できる相手からの助言や励ましがあれば、子どもは“頑張ろう”と思って取り組むでしょう。基本的な信頼関係をつくるためには、日頃から積極的にプラスの言葉がけを行うことが重要です。“おはよう、顔色がいいね”“元気がないけれどどうしたの?”“授業中集中していたね”“すごいよ”など、“いつも気にかけているよ”“良いところを分かっているよ”というアピールを日々積み重ねましょう。

信頼関係は一朝一夕に築くことはできません。毎日コツコツと言葉をかけることが必要なのです。そして、そのためには、教師や親自身が自分のストレスをうまくコントロールして、心にゆとりをもつことも重要です。ある研究では、教師が多くのストレスを抱えている学級では、子どものストレスも多いことが報告されています。周囲の大人のストレスは子どもたちに敏感に伝わるのでしょうか。

韓国は日本と同様に高床生活文化圏であり、履物を脱いで清潔な床で暮らすため、床に座って低いテーブルで食事をします。そして、金属の食器を用い、短めの金属の箸と柄の長いスプーンを用います。金属の食器は熱くなり持ち上げるとは難しく、また伝承作法により食器は持ち上げずに食すために、箸よりも柄の長いスプーンでほとんどを食べます。

日本は韓国と同様に高床生活文化圏で床に座って食事をします。しかし、日本の箸はお膳の上に配膳された椀・碗・鉢・皿などを手で持ち上げて食するため、お膳用に工夫された形と機能を持っています。日本の箸には摘む・挟む・支える・運ぶ・むしる・ほぐす・はがす・切る・裂く・刺す・のせる・押さえる・分けるなど、たった2本の棒でナイフ・フォークの役目も果たす万能性があります。しかし、この万能性を発揮できるのは日本料理における巧みな包丁使いのおかげです。例えば、料理の作り方に「一口大に切る」とよく書かれていますが、これは口に入る大きさという意味ではなく、箸で掴める大きさということなのです。

箸の語源は「階(きざはし)」：一階と二階をつなぐ階段、「梯」：はしご、「橋」：鳥のくちばしと諸説ありますが、食べ物と口・神と人間などいずれも二つのものをつなぐものです。箸の歴史は、「やまたのおろち」の神話の冒頭に川上から箸が流れてきたという文がみられることから、古代より使われていたことがわかります。ただし、当時は今のような形ではなくピンセット状の形をしていました。

日本の箸には特別な日に用いる“ハレ”の箸と日常的に用いる“ケ”の箸がありました。ハレの箸には割り箸を用い、ケの箸には丈夫な塗り箸が用いられました。今でもお正月に祝い箸として割り箸を用意するのは“ハレ”の箸の名残です。箸の両端がとがった形をしているのは「人神共食」の考え方から、一方は人が食しもう、一方で同時に神が食すという意味合いからともいわれています。箸の長さは「箸一咫半(ひとあたはん)」と言い、身尺度で親指と人差し指を直角に開きこの時の親指と人差し指の先の間の長さを一咫とし(図1)、その一咫の1.5倍の長さの箸が使う人に適する長さとしてされています。たとえば家族であってもそれぞれの箸を決めているのは衛生面などの理由からではなく、一人一人の手に合った長さの箸を決めていたからです。



写真1 箸の違い

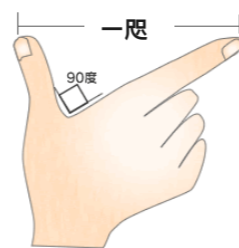


図1 一咫(ひとあた)

2. わん

わんには椀と碗があります。椀は木製、碗は陶磁器ですが、いずれも材質は異なっても大きさと重量はほぼ同じでした。「わんの形は手の形」とされ、手で持ち上げやすい形となっています。口径は片手で持ち上げやすい4寸(約12cm)が決まり寸法ですが、女ものは3寸8分とされ、男女共にわんの口径は身長に8%に相当します。

椀にも碗にも高台または糸底・糸尻(写真2)ともいわれる部分がありますが、これにも決まり寸法があり、高さは指一本分の約1cmで、径は人差し指と中指をVに開いたときにおさまる寸法とされ、食卓からすくうようにして取り上げやすい寸法となっています。また高台があることによって熱くなく、ふちと高台にかけた手によって安定してわんをもつことができます。



写真2 高台の寸法

3. 湯のみ

湯のみは現在お茶などを飲むための食器とされていますが、かつては料理を盛る器や麵つゆをいれるそば猪口やお酒を飲むための万能食器として用いられていました。径は8cm~8.5cmで身長約5%となり、握りやすい寸法とされ、ビールやワインなどのビンも同じ径です。

4. 配膳

「日本型食生活」といわれ、欧米からも生活習慣病予防のために良い食べ方とされる「一汁三菜形式」の配膳の一例をあげます。(図2)

右利きの場合、箸は左に向けて手前、ご飯は山型に盛って左手前、汁物は右手前、主菜は右奥、副菜は左奥、副々菜を中央に置きます。これには意味がありご飯茶碗は左手で回数多く持ち上げるため左手前に、主菜には回数多く箸を運ぶために右奥に配膳します。ご飯を山型に盛るのは、人間に生きる力をくれる神は山に居ると考え、その力を授かるためにご飯を神のいる山の型に盛って食べ、そのおかげで元気になると考えていました。そのことから現在も「ご飯を盛る」と言います。また、茶碗のふちなどにご飯粒をつけることのないように、神の住む山をきれいに装うから「ご飯をよそう」とも言います。



図2 一汁三菜形式

食事はなんとなく1日3回お腹をいっぱいになれば良いとする人もいますが、食に対する正しい知識・感謝の気持ちを持ち、日本古来の食文化やマナーを知り、人と食することが楽しい“人生約90,000回の食事”が、身も心も健やかになる食事であって欲しいと思います。

教育養成教育推進室長 青木幸子教授

- ① トップレベルの国々と比べると下位層が多い
- ② 読解力においては関係性の理解や既知の知識や経験と結びつけることが苦手である
- ③ 数学的リテラシーはOECD平均を上回っているが、トップレベルとは差がある
- ④ 読書活動も進展したが、諸外国と比べると依然として本を読まない生徒が多い、など。

そのため、今後の教育政策として、活用する能力の育成に努め、個に応じた指導を推進していくとともに、学級規模を小さくするなど条件整備を進めていくことを表明しています。

ところで、教育は順位を競うことを目標とするものではありません。なぜなら、2000年の調査開始からトップレベルの順位を保持しているフィンランドは、教育の「質」と「平等」を共に追求した教育政策を採用してきたからです。世界の国々がフィンランドに注目するのは、その順位ではなく、「質」と「平等」を対立軸としてではなく相補的な関係として捉え、展開してきた教育政策にあるのです。(本通信第2号参照)

すべての子どもが個人の持てる能力を平等に開花させ、自立するための知識と技術を獲得し、意欲と態度を育てていく、その基礎を培うのが学校教育です。誰と、何を、どのように学ぶのか、教員はその専門性にかけて探究していく責務があります。人を育てるといふ使命を遂行するために。

新学習指導要領に基づく新たな教育方針と教育課程に基づく教育が、平成23年度より完全実施となります。今次改訂では「生きる力」の育成に結びつく「活用する能力」を育むことが強調されています。多くの教員にとって、題材・単元構成や指導の工夫に余念がないことと思います。

本通信「第4・5号」の本欄において、OECD/DeSeCoによるキー・コンピテンシーと授業づくりについて述べました。先ごろ、PISA2009の調査結果が公表されましたので、調査開始から今回までの結果の順位を一覧表にしました。3年ごとに実施される本調査への参加国・地域は、回を重ねるごとに増え、各国にとって決して軽視することのできない国際的な調査となりつつあります。それは、参加国の教育政策の見直しに少なからず影響を与えているからです。

実施年	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー	問題解決能力	参加国・地域
2000	8位	1位	2位		32
2003	14位	6位	2位	4位	41
2006	15位	10位	6位		57
2009	8位	9位	5位		65

我が国においても、「世界トップレベルの順位をめざす」政府は、2009年の結果について次のように総括しています。

緑育会よりのお知らせ

緑育会が設立・発足されてから5年目となります。平成23年度には本学は130周年を迎えることとなりますが、これにあわせて記念事業の一環として、緑育会では、緑苑祭開催期間中に「総会」と「緑育会設立5周年記念教育講演会」を予定しています。詳細につきましては改めてご案内いたしますが、会員の皆様方には是非ご参加いただきたく思います。

緑育会通信第9号、緑育会に関するご質問・ご意見・ご感想・ご要望等をお待ちしております。下記の緑育会事務局(プロジェクト推進室)までお寄せ下さい。

緑窓教育会(緑育会) ホームページをご覧ください。

- ① 東京家政大学のホームページを開きます。(http://www.tokyo-kasei.ac.jp/)
- ② 「卒業生の方」をクリックします。
- ③ 「緑窓教育会(緑育会)」をクリックします。

または、
http://www.tokyo-kasei.ac.jp/ryokuiku/と直接アドレスを入力します。

緑育会事務局(東京家政大学 プロジェクト推進室)

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
TEL: 03(3961)0084 FAX: 03(3962)7135
E-mail: ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp

ご質問ご意見ご感想をお寄せ下さい。